

実施プロジェクトの概略と2015年以降の支援方針について

2009年から2012年:プロジェクト開始当時から計画していたミャンマーの学校建設及び、小児がん専門施設「チャイルドケモハウス」、小児ホスピス「海のみえる森(現在中断中)」のハードの建設を進めてきました。

2013年度 :上記事業の目的がたち、また、寄付金のキャッシュフローが安定してきたため、難病児支援における非日常の支援として、難病児を対象としたキャンプなどソフト支援を開始。

2014年度 :これまで国内の大型事業の予算を優先し一旦中断していたミャンマーでの学校建設を再開。また、難病支援では施設整備としてデイサービスセンターの設立や、レスパイト施設の施設整備やソフト事業の継続と新規事業の追加を予定しています。

2015年度以降 :実施中のソフト事業は成果を判断しながら原則として継続。施設整備や制作事業等については、個別の計画に基づき継続する事業と、前年度までの成果物の活用を行う(寄付金支出なし)事業にわかれます。
また、下記以外でも、同分野で支援すべき新規事業については追加し、ご相談させていただくことも想定しています。

	～2013年度	2014年度	2015年度～
ミャンマー学校建設	2010年度:シヤン州に学校10校建設。 学校運営のための小規模ビジネス実施。 2011年度～:ミャンマーでの歯科ボランティア実施。	小中学校8校建設(ヤンゴン南西部イラワジ地域) 学校運営のための小規模ビジネス実施。	年間8校の学校建設を2018年まで継続(シヤン州及びヤンゴン南西部のイラワジ地域) TOOTH FAIRYプロジェクトにより合計50校の学校建設を予定。
小児難病支援			
1. 日常の支援 1-1<施設整備>			
(公財)チャイルド・ケモ・サポート基金	2010～2013年度:チャイルド・ケモ・ハウス竣工 (兵庫県神戸市)	---	---
未定(国内7カ所での実施を予定)	---	医療依存度の高い子どもたちへのデイサービスを行うモデル施設を7箇所設立。	2015年度にも医療依存度の高い子どもたちへのデイサービスを7箇所設立予定。 本事業は2015年度で終了し、成果を判断して今後の展開を検討予定。
1. 日常の支援 1-2. <ソフト事業>			
(一社)こどものホスピスプロジェクト	---	在宅で難病児をケアする家庭に、専門家チーム派遣による訪問型レスパイトサービスの提供。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
2. 非日常の支援 2-1<施設整備>			
(一財)海のみえる森	2013年:土地建物の利用条件に変更があったため、 TOOTH FAIRY事業としては中断し、日本財団の自主事業 として具現化の可否を検討中	---	---
(一社)奈良親子レスパイトハウス	---	東大寺の境内および僧房の提供を受け実施中の親子レスパイト施設の厨房及び浴室の改修。 難病の家族が利用する上での利便性向上と、プログラムの充実を図る。	---
(公財)そらぶちキッズキャンプ	---	停電時・緊急時の医療ケア体制を充足するために無停電装置を整備。 車いす患児用にツリーハウスに併設した遊具を設置。	---
2. 非日常の支援 2-2<ソフト事業>			
(認特)難病の子ども支援全国ネットワーク	2013年:小児難病児のキャンプ実施(宮城県蔵王町)。 184名参加。	小児難病児の自然キャンプ実施(神奈川県・沖縄県)。 300名参加予定。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(公社)日本糖尿病協会	2013年:小児糖尿病患児のキャンプ実施(全国49カ所)。 約1100名参加。	小児糖尿病患児のサマーキャンプ実施(全国48カ所)。 1100名参加予定。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(公財)そらぶちキッズキャンプ	---	小児難病児のサマーキャンプ実施(北海道滝川市)。 55名参加予定。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	2013年:小児難病児及びその家族の家族全員旅行実施 (全国4カ所)。23家族、94名参加。 サンクスギビングパーティー、写真展の実施。	小児難病児及びその家族の家族全員旅行実施(全国4カ所)。 30家族参加予定。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(特)スマイリングホスピタルジャパン	---	マジシャンや演奏家によるレスパイト提供(全国4カ所、18回実施)。 80名参加予定。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(特)日本クリニックラウン協会	---	入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長 をサポートするクリニックラウンの育成。	継続予定。但し事業は単年度で決定し、継続は前年度の実績により判断する。
(特)チャイルド・ケモ・ハウス	---	中高生など思春期、若成人期の小児がん患者を対象として、日常生活を送る上での悩みを抽出し、ケ アプログラムを作成。	---
3. 難病児支援実務者のネットワーク			
(公財)そらぶちキッズキャンプ	2013年:小児レスパイト施設7団体による実践者会議を開 催(北海道・東京 計3回)。	小児レスパイト施設7団体による実践者会議を開催(全国3カ所)。	継続予定。
4. その他			
(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	---	難病の子どもとその家族への理解推進のため、ドキュメンタリー映画を作成。 完成後、全国各地で公開予定。	---